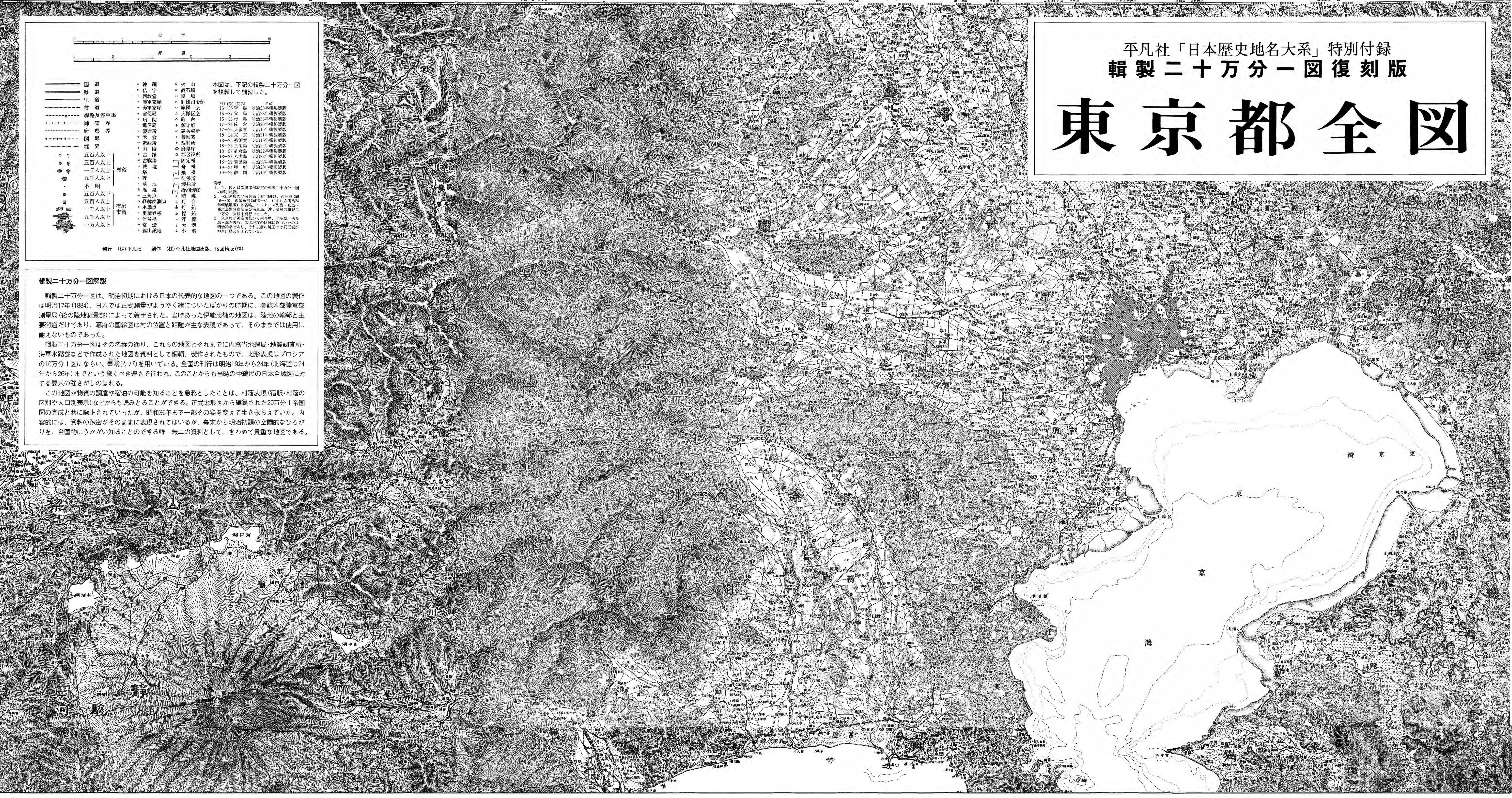
平凡社「日本歴史地名大系」特別付録

輯製二十万分一図復刻版

東京都全図


東京湾
吉米
10
5
0
5
10
邦里
1
0
1
2
3
4

国道
県道
里道
村道
線路及停車場
師管界
府県界
国界
郡界

五百人以下
五百人以上
一千人以上
五千人以上
不明
（村落）

五百人以下
五百人以上
一千人以上
五千人以上
一万人以上
（宿駅市街）

神祠
仏宇
西教堂
陸軍家屋
海軍家屋
郵便局
病院
電信局
製造所
米倉
造船所
山陵
古蹟
古戦場
城墟
塔
碑
墓地
温泉
三角点
経緯度測点
水準点
里標界標
信号標
常燈
鉱山鉱地

火山
截石場
塩場
師団司令部
旅団仝
大隊区仝
砲台
鎮守府
憲兵屯所
警察署
裁判所
府県庁
郡区役所
固定橋
舟橋
飛橋
徒渉所
渡船所
繰綱渡船
暗礁
灯台
灯船
標船
浮標
大港
小港

本図は、下記の輯製二十万分一図を複製して調製した。

〔行〕〔段〕	〔図名〕	〔年紀〕
15－36	聟島	明治23年輯製製版
15－37	父島	明治23年輯製製版
15－38	母島	明治23年輯製製版
17－24	佐倉	明治20年輯製製版
17－25	大多喜	明治19年輯製製版
18－24	東京	明治21年輯製製版
18－25	横須賀	明治19年輯製製版
18－26	三宅島	明治22年輯製製版
18－27	御倉島	明治22年輯製製版
18－28	八丈島	明治22年輯製製版
18－29	青篶島	明治22年輯製製版
19－24	甲府	明治20年輯製製版
19－25	静岡	明治19年輯製製版

備考

1、行、段とは参謀本部設定の輯製二十万分一図の索引組織。
2、火山列島の北硫黄島（16行39段）、硫黄島（同16－40）、南硫黄島（同16－41、いずれも明治24年輯製製版）は省略。ベヨネーズ列岩～鳥島～西之島間各島嶼及び南鳥島、沖ノ鳥島の輯製二十万分一図は未発行であった。
3、東京府が神奈川県から南多摩、北多摩、西多摩三郡を吸収、ほぼ現在の区域に近づいたのは明治29年であり、それ以前の地図では同区域が神奈川県と記されている。

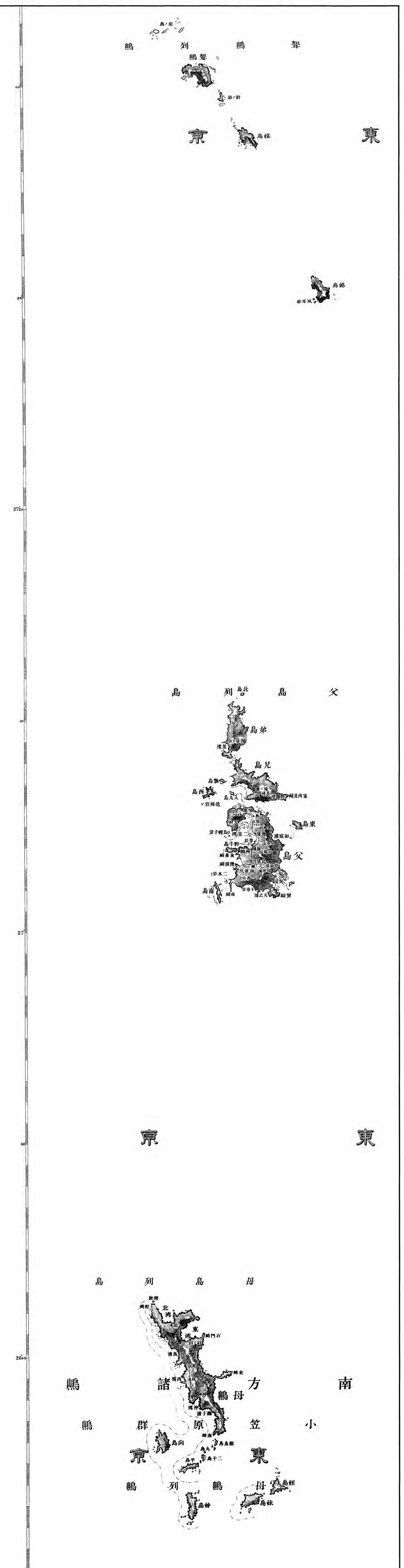
発行　（株）平凡社　　製作　（株）平凡社地図出版、地図精版（株）

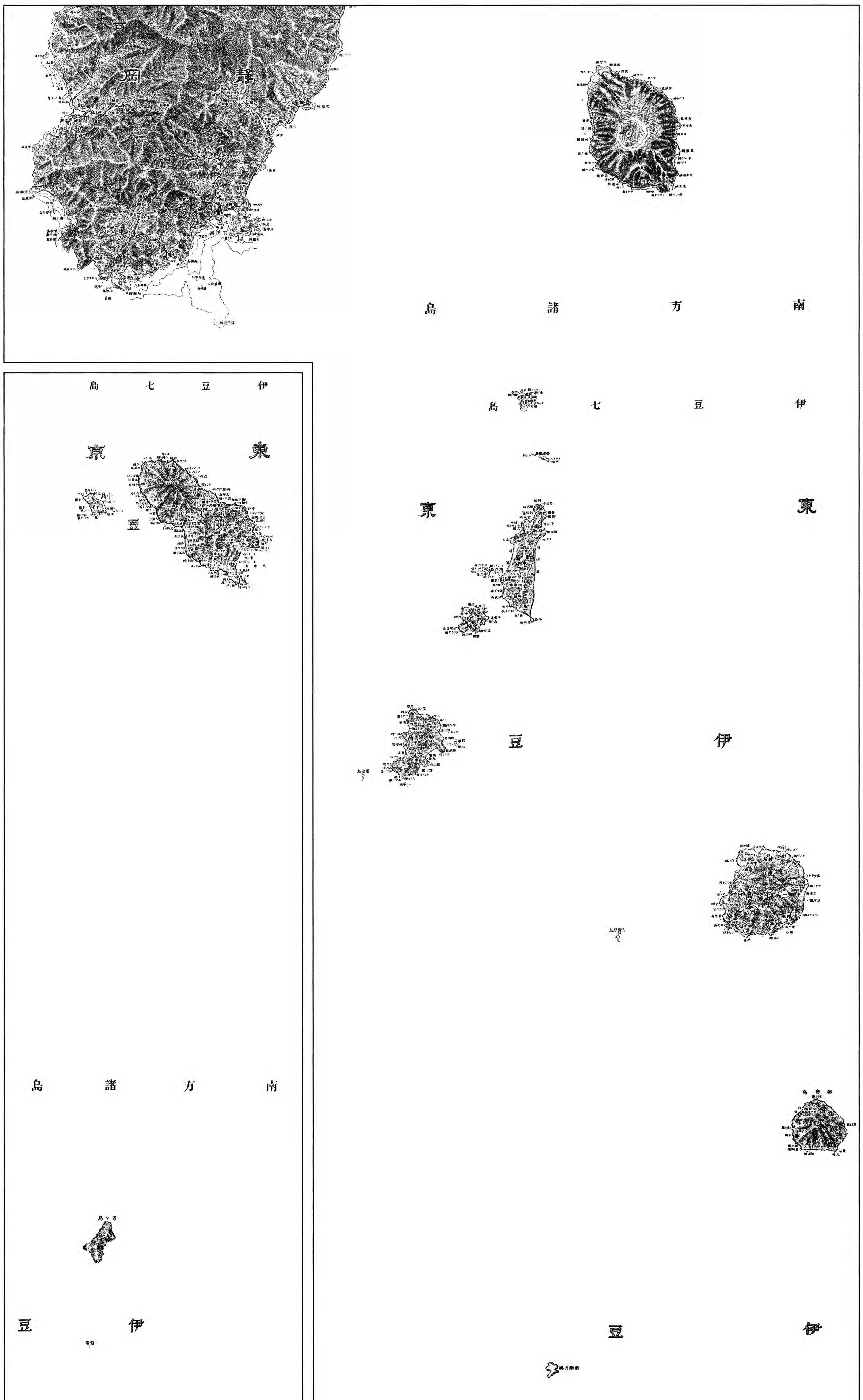
輯製二十万分一図解説

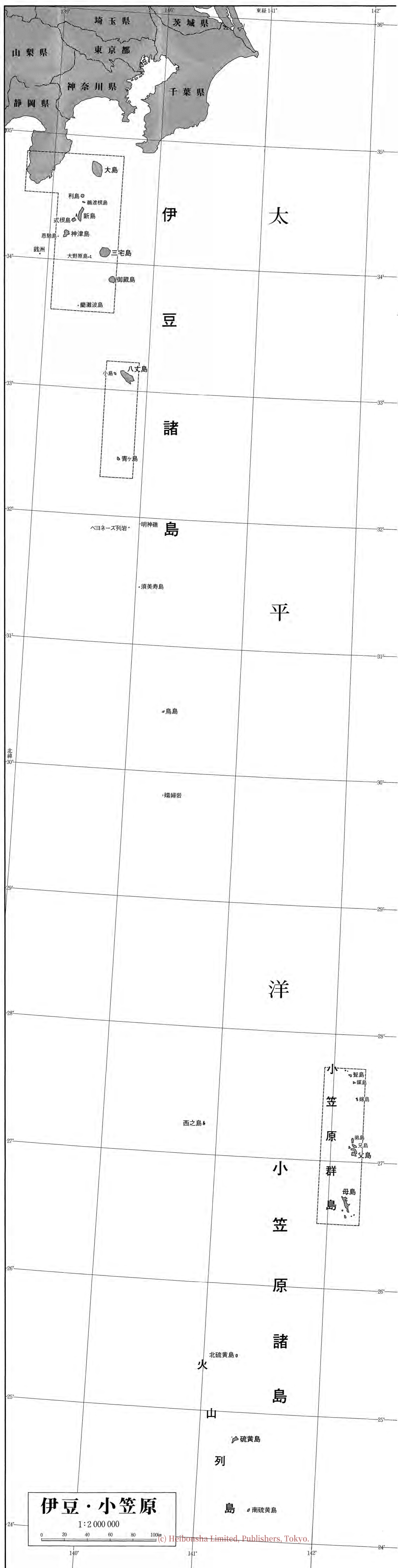
輯製二十万分一図は、明治初期における日本の代表的な地図の一つである。この地図の製作は明治17年（1884）、日本では正式測量がようやく緒についたばかりの時期に、参謀本部陸軍部測量局（後の陸地測量部）によって着手された。当時あった伊能忠敬の地図は、陸地の輪郭と主要街道だけであり、幕府の国絵図は村の位置と距離が主な表現であって、そのままでは使用に耐えないものであった。

輯製二十万分一図はその名称の通り、これらの地図とそれまでに内務省地理局・地質調査所・海軍水路部などで作成された地図を資料として編輯、製作されたもので、地形表現はプロシアの10万分１図にならい、暈滃（うんのう）（ケバ）を用いている。全国の刊行は明治19年から24年（北海道は24年から26年）までという驚くべき速さで行われ、このことからも当時の中縮尺の日本全域図に対する要求の強さがしのばれる。

この地図が物資の調達や宿泊の可能を知ることを急務としたことは、村落表現（宿駅・村落の区別や人口別表示）などからも読みとることができる。正式地形図から編纂された20万分１帝国図の完成と共に廃止されていったが、昭和36年まで一部その姿を変えて生き永らえていた。内容的には、資料の疎密がそのままに表現されてはいるが、幕末から明治初頭の空間的なひろがりを、全国的にうかがい知ることのできる唯一無二の資料として、きわめて貴重な地図である。


聟島列島
東京
父島列島
東京
母島列島
南方諸島
小笠原群島
東京
母島列島


静岡
南方諸島
伊豆七島
東京
伊豆七島
東京
伊豆
南方諸島
伊豆
伊豆


東経141°
139°
140°
142°
36°
35°
34°
25°
24°
埼玉県
茨城県
山梨県
東京都
神奈川県
千葉県
静岡県
大島
利島
鵜渡根島
新島
式根島
神津島
恩馳島
銭洲
三宅島
大野原島
御蔵島
藺灘波島
八丈島
小島
青ヶ島
ベヨネーズ列岩
明神礁
須美寿島
鳥島
孀婦岩
西之島
聟島
父島
母島
北硫黄島
硫黄島
南硫黄島
伊豆諸島
太平洋
小笠原群島
小笠原諸島
火山列島
140°
141°
142°

伊豆・小笠原

1：2 000 000

0
20
40
60
80
100km

(c) Heibonsha Limited, Publishers, Tokyo.